絶好の機會！

大僧正故本多猊下最近の名著四種左の通り特價提供す
吉凶共に此等の賢答は自他の法益極めて甚大ならん
部數に限りあれば品切れとならぬ間に即時御申込あれ

一　法華經要義　定價　金參圓　送料　十四錢
一　日蓮主義心髓　定價　金壹圓八拾錢　送料　十錢
一　日蓮主義精要　定價　金參圓五拾錢　送料　十六錢
一　日蓮主義本領　定價　金貳圓五拾錢　送料　十二錢

今月中に限り一部賣は二割引　送料は實費を申受く

磯部滿事謹輯
一本多日生上人　實費頒布

申込所　東京市外南品川町妙國寺內
「教」發行所
振替東京一〇九四〇番

統一定價

一部	金貳拾錢	送料五厘
半ヶ年	金壹圓貳拾錢	送料共
一ヶ年	金貳圓貳拾錢	送料共

統一廣告料

表紙一頁	金貳拾圓
一頁	金拾五圓
半頁	金九圓
四分一頁	金五圓

前金之事

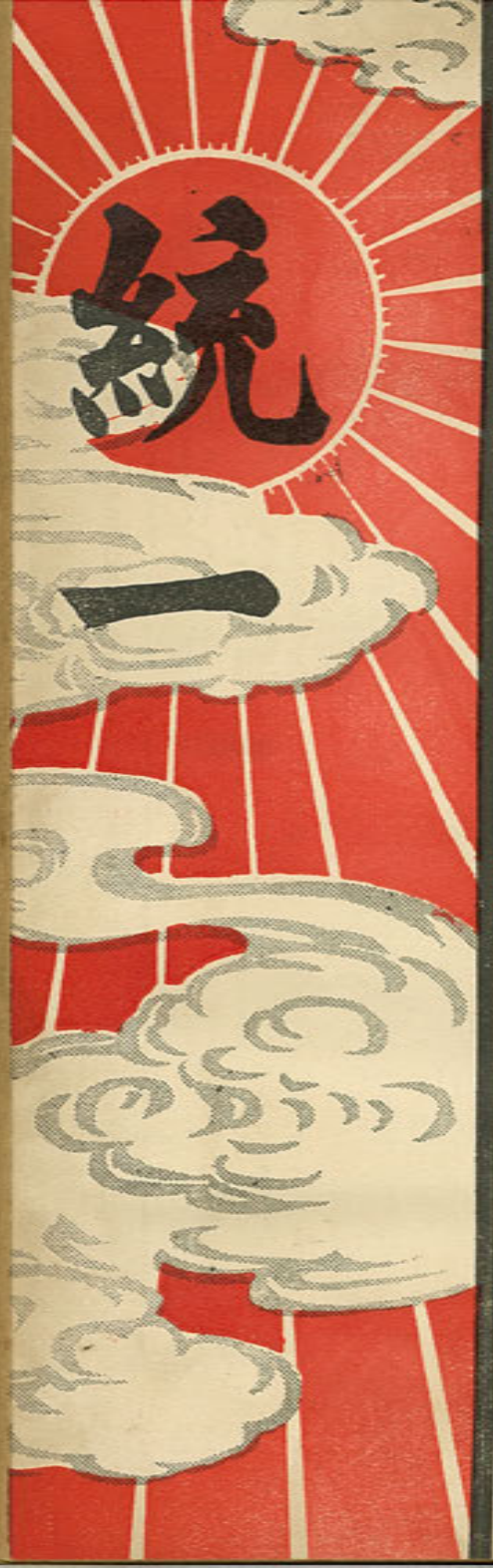
昭和六年九月廿四日印刷納本
昭和六年十月一日發行　（第四百三十九號）

神奈川縣橫濱市磯子區磯子町廣地一四八
編輯兼發行人　磯部滿事
印刷人　鈴木日雄
東京府荏原郡品川町南品川百八十一番地
印刷所　都印刷所
電話高輪六〇二四番

不許複製

東京府荏原郡品川町南品川四百十二番地
發行所　統一發行所
振替東京五一〇七一番

編輯事務ハ發行所ニテ取扱フ



目次

統一團の主義（其二）……故本多日生
自界叛逆難……井上清純
日生上人を憶ふ（其四）
聖訓摘要……聖應院日生上人
野口日主上人追憶……寺尾與三
記事
○報道數件
○統一團法人組織と寄附者芳名
○誌料領收

第三十六年十一月號

統一團協賛會の趣旨

統一團は創立以來實に三十有餘年を經過す其間内に佛祖正脈の法統を闡明し外に我國文化の精髓を宣揚し能く萬代不易の大道を擁護し又能く時代對應の教化を旺盛ならしめ以て文化の向上發展に貢獻せり此の光輝ある歴史は決して他の追隨を許さゞる所なり

統一團は本團自身の活躍の外本團が母體となつて幾多の子會と事業とを産出せり其の首なる者に就て見るに天晴會は當代の有力者を網羅して法華經の眞意を發揚し仏道一乘の實例を示し廣く世人をして日蓮主義に接觸せしめ又地明會は婦人の團體として當代の教育ある女性を覺醒して信仰勤發の機緣を與へ又講妙會は數年に亘りて法華經遺文錄大藏經を講じ以て教學の精要を發揮す現在日蓮主義の爲に活躍せらるゝ知名の人士は殆んど此の講座に列せざるは無し又著述出版に於ては「摩訶止觀要義」「大藏經要義」「法輪」「日蓮主義綱要」「法華經心髓」「法華經要義」「日蓮主義精要」等の幾十種の出版を見雜誌としては「統一」と「教」とを發行し來れり其の著書の數は實に等身に超たり又自慶會は勞働者善導の爲に活躍し廣く全國の有數工場に對して社會教化の効果を擧げ又各派統合事業の如きは萬般の協調を得て其の成立を見又大師號宣下の事の如きは本團を中心として完全に其の大事を成就し又知法思國會は時代人心の趨導に就て最も適切なる教化を起し又街頭宣傳の如きも爽々たる道念を喚起し今や多大の感動を與へつゝあり其外全國各地に起りたる日蓮聖人崇敬又は法華經講演の幾百千の團體は本團活躍の刺戟を受けて之が創立の證因を爲せることも測知し得らるべきなり

知此多人なる與教宣布の實を擧げ得たる團體は恐らく他に存せざるべし又本團に於て開催せる法華は其數幾百千回なるを知らず總裁日生上人一人の講演說法のみに於て優に一萬座を超過す古來說法一萬座の人に對しては特に謝恩會を開くの例なり上人の知きは稀回意義精妙の教旨を而も熱誠を盡めて講述せられしものにして一萬座の說法の一事より見るも本團の功績は多大なるを推知すべきなり　今上天皇御登極に方り聖眞御下賜の事あり又文部大臣より多年社會教育に盡瘁し其功績顧著なりとして表彰せられしは是れ實に本團の光榮なりと謂ふべし

統一團は過去に於て如斯多大なる法動を有する名譽ある正定聚なるが猶ほ將來に向つて重大なる任務を擔當せり其中心の事業を擧ぐれば第一佛祖正脈の法統を擁護する事、第二我國精神文化の精髓を體系的に發揮する事、第三此に適當する學風を振起する事、第四時代對應の教化を研討して之を實行する事、第五小にしては日蓮門下の爲め大にしては我國文教の爲に每に覺醒を促しつゝ嚴然として統一の學風と教化とを守持する事是れなり教旨の正明、研學の洞達、活動の旺盛、此等は統一團の標語なるが其實力を發揮せんとすれば更に相當なる施設を要す是れ今回統一團協賛會の創立を見るに至りし所以なり、協賛會の首なる事業は本部の創立研究上の設備布教上の設備にして猶法人組織として相當の維持金を蓄積するを要す、其の實際の事務は理事會に於て調査講究せらるべし

佛祖の法統を擁護し我國の精神文化を闡明し此に適する教學の特色を永久に持續せんと欲せば統一團事業の協賛は最も根本的の大善事なるべし、玆に同志結束して本會を創立す同感の士女奮つて賛同あらんことを爲法爲國爲一切衆生切に懇望する所なり

◎統一團の主義

（承前）（明治三十年二月一日發兌）（統一團報第三號所載）

本多日生師演說

速記法研究會員速記

夫で國と云ふ上から申しましても、詰らない信仰を幾つも教へて置く事は大變宜しく無いから、今軍人抔の方に向つても必ず一つの統一した宗教を以つて導かなければ、多くの軍隊の布教も出來ない場合になつて居る、所が南無阿彌陀佛を以て軍人を導くか、尙ほ他に眞正なる宗教があるかと云ふならば、多くの軍隊に念佛宗のやうな信仰を教へて、生命終つたならば有りもしない安養淨土へ行く、唯々南無阿彌陀佛と賴みさへすれば宜しいと云ふやうに、さう云ふ消極的信仰を以て、日本の軍人抔に教へたならば、日本の國力の上に大變な關係を持つて來るのである、能く考へねばならぬ、眞宗の信徒ちや坊さんちやと云つても、日本の國を大事と思ふ考へはチットはあるでありませう（決してあらずと叫ぶものあり）國といふものを……あなた方にしても小供の頃から、始終念佛なんか言はして置くと、此樣に發達進歩は仕切れぬです、將來に望み多き日本國内にせよ、又は世界の上にせよ、雄飛しやうといふ希望があるべきものは南無阿彌陀佛といふ樣に哀音で言ふて居つて、誠に悲しくなる樣に信仰を持つて居りますと、大變日本の元氣を殺ぎ日本の國力を沮喪するといふことは論より證據立派なものである。今こゝに露西亞と戰はうと云ふ時に、軍隊を集めて先ず一つ南無阿彌陀佛を言はして御覽なさい、スッパリ士氣が沮

喪して仕舞ふ、けれ共此神州に於ては一つの世界各國に打勝つ國體と云ふものがある、日本が神州だから決して他の國に破られると云ふことは無い、國を開いて今日に至るまで外國より辱めを受けたことは一遍も無い國である、のみならず今日は一歩進んで敵國を破らなければならぬと云ふ勇氣凛々たる場合に念佛を言はして御覽なさい、スッパリ兵氣が沮喪して仕舞ふ。（拍手喝采）

夫で眞宗を何故攻撃するかと云へば、彼宗旨に一つの大野心を持つて居るといふものは、此日本の各宗の阿彌陀様が元は眞言でも何でも念佛を言ふべき宗旨では無いが、何時の頃にか捲き入れられて南無阿彌陀佛といふ方に引込まれた、禪宗でもさうだ、己が立派な宗義を持つて居りながら其宗義を棚に上げて、念佛の横鼻禪撫ぎをして居るから、我々は眞宗を攻撃する（ヒヤ〳〵拍手喝采）其他天台なら天台が其一宗の資格を護持して居るか（情けない有様に陥ちた）全く此日蓮宗があればこそ眞宗の野心が行はれない、各宗協會を結ぶ時には、己が野心の根性を無くして色々七面倒な六つかしいことが是までである、眞言に於ても何だか六つかしい理窟を言ふし、天台に於ても變捍な六つかしい議論を吐いて、一つも宗教の信仰を喚び起す議論が無い、學問として見るか知らぬけれ共、宗教としては佛教中唯々眞宗の念佛に日蓮宗の題目は眞に宗教の資格を備へて居る、そこで此日蓮宗さへ抑へて置けば、外の宗旨を凌いで覇權を握ることは最も易いと思つて居る、夫で各宗協會を結んで色々陰險手段を以てからに、大谷光尊が會長になりますまで一昨年の七月から、本年六月まで大谷光尊が會長の任期が切れる、交番法でやるからさう云ふことになる、然るに斯う云ふ事業は二三月も掛れば出來るもので、各宗から出したものを集めて成るべく文章の一定を計るといふ丈けのことで、今出版せられたものを見るとあれ位の手際なら佛教家中で三人四人寄つたら一週間で仕上げる者は澤山ある、夫をば七年の間延ばして置いて大谷光尊が會長になつた時分に大急ぎでやつた、大谷會長が在職中に前來の各宗を壓倒して、假令日蓮宗が議論を吐いても何でも、壓倒して公認せられるであらうと云ふので抑へて仕舞はうとした、今日でこそ化の皮が表はれたから奴の野心が行はれぬ様になつたけれ共、若し我々が此議論を唱へなかつたならば、公然隱然各宗をば凌駕して遂に己が國教とならうといふ勢力を握るかしらぬ、國教となつては日本の國力を失ふ大惡魔であるのぢや、此大惡魔を退治する爲に現はれたのが妙瀧寺派の大運動であります。國を思ふ精神があつたならば一つ考へて見なければならぬ、坊主と坊主の喧嘩だと見て居る中は貴君方の目が暗んで居る、そんな譯のものではありませぬ、彼が隱然貴顯の方へ取り込んで其結婚の工合から上流社會に殆んど並ぶる贅澤をやつてることは、今日に初まつて居るのぢやございませぬぞ、彼は立派な教義を以て日本の勢力を占めて居るので無い、鄙劣なる方法に依つて今までの勢力を得て居るのでございます、宗教の値打があつてあれは勢力を得て居るのでは御座いますまい、あんな詰らぬ宗義で、あんな詰らぬ所の教で、此佛教の中の大多數の勢力を占めるに至つたと云ふものは、最も惡むべき方法に依つて居るのぢや、それを御氣がつかぬやうなる日本國民ならば、實に日本國民は寢忱けたと言つても宜い（眞宗坊主顔色なし）夫で貴君方自身に考へて見ても宜いだらう、國教とならぬまでも日本國の大多數の勢力を有する宗教は、どうかして國の爲に實際の効のあるものといふ結果を結ばしたい、是丈けの希望は誰でも持たなければならぬ、夫で眞宗の教理が宜いのなら貴君方が一生懸命外の仕事をして居るも宜いけれ共、あゝ云ふ宗教が日本の大多數の勢力を占めた場合に、國を損ね人を損ねることが分つ

たならば、日蓮の議論に賛成して、彼の一切衆生の爲に念佛無間を唱道して彼宗旨の勢力を殺がなければなるまい、尙ほ夫れ位なことではありませぬ、日蓮聖人が念佛無間を唱道するに至つた所以のものは幾らもある、先づ其中の要點をこゝに讀んで御話を致しませう。

第一に此四箇格言は大聖日蓮が尊王愛國の大誠忠より唱道したるものである、次に四箇格言は大聖日蓮が國家主義の擁護者として日本的宗教を確立するの大活案より唱道したるものである、又第三に四箇格言は大聖日蓮が政教の關係を圓滿ならしむる大方策より唱道したものである、第四に四箇格言は大聖日蓮が空想的宗教を排して國家に實益ある宗教を起さんとするの大精神より唱道したものである、又第五に四箇格言は大聖日蓮が多くの迷へる衆生をして未來永世の大快樂を得せしめる爲に、佛教の眞理に適ひし宗教を起さんとする精神より唱道したるものである。

此の如く、決して日蓮は或る一つの宗旨を壞はすといふ小さい考で無しに、此四箇格言なるものは全く國の爲に唱道したものぢや、一切衆生を救ふといふ大慈悲心より現はれたものと思ふたならば、喜んで日蓮聖人の議論に服從しなければなるまい（ヒヤ〳〵）宗教抔といふものは知らず識らずの間に誤り易い、丁度鰯が一定の方針を執つてどつちへ行かうと云ふ考は無いけれ共、毎年上總の九十九里へ行くと鰯が大變寄つて來てモウ動けなくなるまで押掛けてやつて來る、別段何處に目的を立てて彼等が進んで居るといふことも無いけれ共、潮の工合又氣候の工合に依つて上總の九十九里を指して、鰯が何億萬とも知れぬ程毎年やつて來るのであります、彼は一人の方針を執る奴があるのではないが自然の大勢に促がされてやつて來る、今眞宗の何百萬の門徒が念佛を唱へて居るのも、丁度鰯がグジャ〳〵言つて九十九里の濱へ寄つて來るのを、漁師の網にかかる樣なもので、佛教を研究した結果に依つて彌陀を信ずるでも無い、國家を思ふ國家主義の觀念から信ずるでも無い、唯々ぼんやりと阿彌陀樣は難有いと云ふ言葉の下に寄集つて居るものである、方針もなければ主義も無い、尤大な團體と言ふより外ない。夫で こゝろざし ある人は考へなければならぬ、あゝして日蓮宗が聲を潤して言ふのは阿彌陀といふものは何に依つて出來たか、彌陀の願力を以て我々を救ふことが出來ると云ふ其安養淨土は實際あるか無いかといふこと、又此念佛宗は亡國宗であるか無いかと云ふ事をば研究せねばならぬからである。

眞宗から出た人には博士もあり學士もあるが、彼等は充分其意見を發表しない。其の立派な人の腹の中には念佛門の如きものは、眞理には適はないけれ共、末法の下根を救ふ方便手段としては、先づ是で宜からうと云ふので、全く眞理と見て眞宗を信じ國益と見て眞宗を信ずるのではございませぬ、矢張り博士と云つても學士と云ふても、腹の中は矢張り鰯の仲間であります（大笑喝采）そいつを言つては仕方が無い、マア幸ひにして無宗教の人なり、又即ち他の宗教を奉ずる人は、彼等日本の國害的宗教である、一切宗教の爲に仇なす宗教であると云ふ事の考を持つて居る、強ち日蓮の議論に引き入れなくても、國を思ふ人は皆此念佛無間の下に集つて貰はねばならぬ。尙ほ又此統一主義といふ事に附きましても色々議論がございまして佛教は御釋迦樣の開いたものであるから、佛教大學を建てゝ其本尊に御釋迦樣を置いたら宜からう、歴史的御釋迦樣を置いたら宜からう、歴史的御釋迦樣とは天竺に出て佛法を說いた御釋迦樣だ、固より釋迦は初めから悟つてゐる本佛だ、此釋迦は誰に就いて學問したかと云ふと、所謂迹因と本因とが分れて居る、さう云ふ教理の議論は置いて、佛教徒であるから御釋迦樣に拜服

しなければならぬと云ふ此議論の下に、統一したらどうだらうと云ふ說も出て居ります。夫で我々の宗祖といふものは天竺に出られた御釋迦樣が創めての悟りを開いて御座る、即ち無上の大覺位に登つて御座る本佛釋尊と言ふので御座居ます、外の宗旨は阿彌陀樣の効能を吹聽に娑婆世界に出た御釋迦樣とする、御釋迦樣が廣告屋だ、彌陀に發遣されて藥の効能だの、或は演說の吹聽にガチャ〳〵廻つて居る樣な釋迦は廣告屋である、さう云ふ無禮な見方をする、夫で法華經の御釋迦樣は壽量品を繙いて見れば、原因結果の關係は本因本果と云つて斯うだと云つて說いてある、さう云ふことがあつちの方の敎はさうで無い、第一章提華夫人が念佛の法を聽く時に御釋迦樣に質問したのは何である、私は可愛いと思ふ子に斯う苛められますのは凡夫であるから罪障と云ふものがあるのですが、あなたは佛樣ぢや無いか、夫れだに何故提婆達多のやうな反對者が現はれてあなたの邪魔を致しますか、とかう云ふ質問を致しました、此章提華夫人の質問さへ彼眞宗の奉する御經の中には答辯して居ない、眞宗の人はどうする、章提華夫人の苛められるといふものは、夫は御前に色々の罪があるに依つて反對する子が出來て苛めるのだから大體人間世界はいけない、スッパリ此世界を去つて所謂厭離穢土欣求淨土……無暗に厭離といふことを申す、即ち厭離とは此世を厭ひ離れると云ふことで、さうなつて來ると今日の厭世主義といふことゝ同じ樣になつて、之を淨土門と申すと體裁は宜いが其厭世主義だと言はれるが嫌さに淨土門と申すので、其實是は字で書くと厭離の厭の字も厭世の厭の字も同じ字であります、夫で厭世主義といふことを今まで主張して置きながら、世界の學術の風潮に逆ふことは出來ないから大變に辯解をして居るが、要するに人間は詰らぬといふことを吐露したに過ぎない、三部經と云ふものは此の世界を活かし

此世界を救ふといふ議論では無い、夫だからして提婆達多の事に附て答辯がして無ければ詰り議論が完結して居らぬ、理不盡である、理が盡きて居らぬ、答辯が終つて居らぬ、左すれば之を以て完全なる宗旨を護り立て樣と云つても出來ない、考へて見玉へ。夫で御釋迦樣が本佛で、一切の佛樣の水上であると云ふ事をば信じて、釋迦牟尼佛が無始無終の悟りを開いたので大慈大悲の上から、娑婆世界に現はれたといふことを唱へ、釋迦如來の本心と云ふものを說きましたのが、法華經の壽量品であります、其事を他の學者は知らぬのです。

壽量品の現文を知らざる諸宗の學者は畜生になる、不知恩のものである、佛敎を學んで久遠實成の釋尊の第一義を知らぬのは是程不孝なことは無い、是程不忠なものは無いのだ。(拍手喝采)

其御釋迦樣……阿彌陀佛があるといふことを說いたのも御釋迦樣です、今日其大恩ある釋迦如來を排斥しやうと云ふのは全く間違つて居る、佛敎の大誤解のしるしである。

夫で歷史の釋尊を見ませうと思へば、歷史上の釋尊は取も直さず即本覺の釋尊である、念佛宗の人は夢にも知らぬ、夫で我々が今此身體を捨てゝ仕舞ひ此心を捨てゝ仕舞つて、眞宗の言ふ樣に汚い心の身體だと云ふて、其外の物が阿彌陀樣の所へ行くと云たら他人が往生するのです、貴君方の心を捨てゝ身體を捨てゝ何も無いものが行くならば、他人が行くのだ、先づ己の身體と己の心を具有して、此身體を具足して置いて見た時にはどう云ふ風に解釋するかと云ふと、即ち一念三千といふ法門が說いてなければ成佛の仕方が無い、即ち眞宗の奴共は砂を絞つて油を出さんとし石塊を抱いて兒を生まんとする如きものである、馬鹿げ切つたる宗旨である、そんな事を我が同胞に傳へて居るのを默つて捨つて置くのはどうだ(拍手喝采)憐むべしと言はうか何と言は

うか馬鹿げ切つたる宗旨である、そんなものが世俗の中に勢力を得て居ると云つて、國家の爲に賀すべき現象と言はれやうか、だからして我が本體を說明し、我が原因結果の法則に據つてチャンと今日の地位より優等なる地位に進み、今日の苦痛より快樂の地位に昇るといふ所の實際教の道理に適つて居る所のものを信じなければならぬ、御祖師樣も斯う仰しやる『法華經とは別のことも候はず此世の事後のことを言當てゝ候が法華經にて候』何も六つかしいことは無い宗教といふものは其言ふことが一々本當になつたら夫が本當の宗教で、左もなければ本當の宗教とは申されない、阿彌陀が救ふて呉れると言ふても、有りもしない極樂淨土に、有りもしない阿彌陀が救ふてやり樣がない、全く嘘だ、そんな事は有りはしない、夫で法華經は此世の事を說いても後の事を說いても、實際に當嵌つて居るから是が法華經の難有い譯だ。大體宗旨なんと云ふものは、丸で嘘を以て凝めたものになつて居る、夫ちや不可い、何でも言ふ丈のことは實際に合はぬければならぬ、夫で今申しまする歴史の上のお釋迦樣が難有ければ……其御釋迦樣が取も直さず無始無終の悟りを開いた御釋迦樣だから、其御釋迦樣からの依賴を受けて、即ち本佛釋尊の大依托を受けて日蓮聖人が此世に出られたものである。親鸞などのやうに何から出て來たか分らぬ樣なものとは違ひます、あんなものは一箇の坊主だ、日蓮聖人は本化上行菩薩にして釋尊から佛教統一の大任を委任されたものである、夫れでどうぞ歴史の御釋迦樣に頭を下げると云ふ統一議論が世に現はれて居る今日だからして、釋尊が取も直さず一切悟りの水上となり、其釋尊が一切の佛の本體であると云ふ事が明かにしてあるのは壽量品で、本當の是れが眞正なる佛教の教理である、一念三千の法も法華經にあれば、我々の國家を統一する立正治國の法も法華經にあれば、一切の宗教を統一する丈

けの折伏の元氣も、此の法華宗にあるから、今までの樣な宗教と云ふものが唯々人の心を惑めて、さうして厭になる樣な南無阿彌陀佛を云はして居るが宜いと云ふ時代は、日本が閉鎖して東洋の一小國として居つた時代は宜いか知らぬけれ共、是れより世界の舞臺に出て、何處までも我が日本の獨立を維持する所では無い、萬國の安寧秩序を正すを以て日本が天職とする位な大希望を持つて居る場合に於きましては、あんな念佛の樣な宗旨を以て結合した宗教徒に於て到底事は成せぬのである（ヒヤ〳〵拍手喝采）彼日蓮聖人のやうな成程暴つぽい氣象で何處までもシャチコバッたらシャチコバッて居ると云ふ勇氣でなければ、此の國家を護ることも何も出來ませぬ。念佛の樣な宗旨で國家の眞の護持が出來たら御目に懸りませぬ、日蓮聖人は念佛無間を唱道すると同時に、又此世界に戰爭が起ることも豫言して居る、國と國との間、列國の戰爭が止まらないけれ共、此世界に大戰爭を喚び起す時に於ては、其時には宗教の結合に依つて其國を保護せなければならぬ、嘗て日清戰爭の時に露西亞の新聞に書いたことがある、夫は必ず今に基督教と佛教と云ふものの宗教の大同盟の中に戰が起ると云ふ事を申て居る、決して今までのやうに唯々支那と日本が戰ふた位いのものでは終らないのであります、既に三國同盟した時分に强固な外交家が居つたならば此の同盟を斥けた結果、日本は定めて盛んなことが出來たでありませう（拍手喝采）其の通りで若し其の時分に日蓮宗を斥けたならば、即ち念佛のやうに幽靈見た樣なものを以つて此の日本國を結合したならば、どうして日本の獨立を維持し其の天職を全うすることが出來ませうか（拍手喝采）どうぞ國を思ふの精神がございますならば、念佛のやうな幽靈のやうなものよりは、立派な日蓮宗の如き信仰を持つて頂きたい、左も無くして此の發達する所の國に於いて、アー云ふ情ない憐れ

な聲を出して念佛抔を云ふて貰はぬ樣にし、元氣の無い人間にならす立派な信仰を捨てない樣にしたい、さうして國の爲に念佛無間念佛無間と云ふことを云つて貰ひたい（拍手喝采）

どうぞ尙ほ是れより本年は歳が改まりまして大に運動するのでございますが、餘り急いだ爲に正月三日で今日は聽衆も少ない樣でございますけれども、我々の運動は決して今日に止まるのでない、我が日蓮宗の在らん限り我々の精神の續かん限りは此の運動を繼續するのでございますからどうぞ其の思召で御聽取を願います（拍手喝采）。（此項完）

自界叛逆難

男爵　井上清純

本日は統一闘主催の第一回特別記念の會合であり、尙ほ統一闘の創立者である本多日生上人の御命日御逮夜並に日蓮聖人の六百五十遠忌、いろ〳〵の意味合に於ての洵に意義有る會合であります。私は實に近い中に滿洲に參らなければならぬことになつて居つて、いろ〳〵準備もあり多忙なのでありますが、本日は意義有る會合で實はお斷りすることが出來なかつた爲に時間を差繰つて參つた次第であります。洵に今日は我國として自界叛逆難の競ひ起つて居る時でありまして、國民の一人として、又立正大師の門下生として、此の國難に際會して如何なる覺悟を有たなければならないかといふことに就て、多少なりとも御參考に供することが出來れば結構だと考へます。

我が日本國は今や外交、財政、軍事、其の他の方面に於て一大暗礁に乘上げて居るのであります。就中思想の戰に於て窮地に追込められて居るのであります。御承知の如く日蓮聖人はこの思想の戰に於て奮戰された一人で在られるのであります。日本には澤山の忠臣がありましたけれども、多くは兵火の間に於ての忠臣であつたやうに思ふ。この眼に見えないところの、無形の思想戰に於ての忠臣といふものは、指を屈する位しか日本の國に於ても無かつたのであります。況や世界に於ては恐くは一人も無かつたやうに思ふのであります。さういふ大事な思想戰に於て、今日我が國は、立正大師が非常に心配され、又先頃本多上人が常に高調して居られたところの思想の戰に於て、窮地に追ひ込められてしまつて居るのであります。

その思想戰の現れの最も顯著なものは申すまでもなく共產黨の事件であるのであります。この共產黨事件といふものは何かと言へば、大和民族が據つて以て立つところの國の礎から顚覆せんとするものであるのであります。數千年來吾々民族が非常なる努力を以て創造し擁護し來つたところの、この幽玄なる國體と高貴なる文化を根柢より顚覆せんとするものであります。さうして日蓮聖人が『八萬の國にも勝れたる』『大乘一實の國』『本門實機の國』とまで稱揚されたところのこの皇國を、ソビエット露西亞の一聯邦とせんとするものでありまして、斯の如き自界叛逆難に至つては三千年の歷史に於て絕無のことであつて、今や皇國はこの驚くべき內外魔軍の十字架の下に曝されて居るのであります。

而もこの魔軍の戰法たるや潛航式であつて、人の

眼に觸れない所に於て戰鬪が行はれるのでありまして、國民が氣の附く頃には既に勝敗は決せられてしまつて居るのであります。斯して世界の富强獨逸大帝國は倒れてしまつたのであります。又北歐の黑鷲露西亞大帝國も敗れてしまつたのであります。大和民族に取りましては共產黨事件ほど緊切な問題は無いと思ふのであります。反國家思想、反宗教思想を退治折伏することなくして、何の政治があるか、何の國防があるか、何の產業があるか、何の學問があるか、何の教育があるか、何の宗教があるかと申さなければならないのであります。有產階級の人も無產階級の人も、工場主も勞働者も、地主も小作人も、その他一切の國人は、共產黨の本體を究め、さうして徹底的に之を吟味しなければならぬ時が來たものだと思ふのであります。（編者云大談四王天中將講演參照）

この大日本皇國が無かつたならば大和民族の明日は無いのであります。繰返して申しますが、獨逸はカイザーが蒙塵して尙且つ獨逸の共和國は存して居るのでありますが、日本はたゞ皇國としてのみ天佑を保全されるのであることを、大和民族の信念としてこれを忘れてはいけないのであります。日蓮聖人の蒙古使御書に

『一切の大事の中に國の亡ぶるが第一の大事にて候なり』

と言はれて居るのであります。何故に日本國が亡びることが一切の大事の中の大事であるか、本當に日本の人はこれを知つて居るのであらうか、日本も他の國と同じやうに見られて居るのであらうか。若しも日本なかりせば亞細亞の文化は無くなつてしまふのであります。亞細亞の五億人は誰もこれを護ることが出來なくなつてしまふのであります。日本は地圖の上に於て御覽になる通り、亞細亞を抱くところの、實に世界無比なる國勢を有つて居るのであつて、其の東に世界第一の太平洋を控へて居る。この國の成り振り、我が建國の精神は、たゞ大和民族がこの島に閉籠つて自分だけが享樂をするといふやうな、そんな卑屈な考を以てこの國を建て、吾々の民族が三千年この文化を築き上げて來たものでないことは、皆樣も既に御承知の通りであります。吾々は茲に世界第一の文明を打立てゝ、往いては世界を光被するといふやうな大きな理想を以て打樹てられた國でありまして、この國なかりせば亞細亞の文化は亡びてしまひ、この國なかりせば世界に眞の文明を打立てることは絕望になつてしまふのであります。

それでありますからこの國の存在の意義といふものは世界に關係するのである。さういふ高き理想を掲げて吾々大和民族は今日まで來たものでありますから、この國の亡るといふことは一切の大事の中の大事である。と斯う仰せになつて居るのであります。

世人は動もすれば考へ違ひをして居るのでありますが、我が社會制度の中に於て、共產黨などといふものが出る素因があるのではないか、斯う言ふ人がありますが、これは間違ひであります。普通一般の社會主義といふものは、世界に於いて起り得るところの必然性はありますが、マルクス主義、即ち共產主義は決して今日文明國に於て起り得るところの理由は無いのであります。今日に於ては共產主義は明かに一般社會主義から區別せられて居るのであります。それ故に彼等の第一の敵は一般社會主義であります。不思議な事には露西亞のレーニンあたりも、第二インターナショナル、第一インターナショナルを以て第一の敵であると言つて居るのであります。我國の共產黨員が法廷に於いて、他の社會民主黨並に大衆黨あたりを非常に罵る所を見ても不思議な現象であると見られる位に、彼等は一般の社會主義者を罵つて止まないのであります。それはどういふ譯

かと言ふと一般の社會主義とマルクス主義とは全く異なるからであります。一般社會主義の理想に依つて社會が改善せられるに於ては、彼等の目標とするところの暴力革命をする機會を促進することが出來ないのであります。隨つて少數幹部の專制をなすことが不可能になつて來るからであります。即ち彼等の目標は一に暴力革命を以て少數の幹部の專制をするといふのが、彼等の本當の目的であるのであります。

今より約一世紀以前、世界の田舍である獨逸に於て唱道せられたところの一般の社會主義、それが今日に於ては英米佛伊は勿論のこと、本國獨逸に於てさへも原理的に排斥されて居るところのマルクス主義が、日本ではどういふ譯で斯も流行つて居るのか、今日の世界の文明國に於てはさういふものはもう流行つて居らないのであります。然るに日本だけが流行るといふことはどういふ譯であるか。それは全く我が國人が思想的に覺めて居ないからである。全く世界思潮に盲目である爲であります。これはどうして盲目であるかと言ふと、地の理が亞細亞の東に偏在して居るといふことが一つの理由でありませうが、文字等が違ふ爲にどうも向ふの事情が能く映つて來ないのであります。さうして學問の本家であるところの帝國大學がどうも獨逸の學問を崇拜して居つて、それから蟬蛻することを忘れて居る爲であるのであります。それ等の結果でありませうが、どうも我が國人の世界思潮に盲目な爲に、斯ういふ結果を持ち來して居るものであると思ふのであります。

併ながら又一面に於ては、マルクスの本をお讀みになつた人はわかる通りに、マルクスといふ人の其の時代、その環境から起つて來るところの、世を怨み、國を呪ふといふ、その青い焰を出して居るやうな憤焰といふものは、一種不思議な魔力を有つてその文體に表れて居るのであります。一種特別の文體であります。名文では決してないのでありますが、不思議な魔力を有つて居るところの文體であります、人の心を苛立たせるやうな、世を呪ふやうな、國を憎むやうな語で充滿して居るのであります。この一種不思議なところの文體を藉りて、偶々我が國人は、恐らく外國に見ることが出來ないやうな一つの反撥性を有つて居るのであります。日本人は世界に稀なるところの反撥性を有つて居る國民であつて、押へて押へることの出來ない國民であります。この反撥性はやがて日に新なるところの日本の國運を震し來つた原動力でありまして、善く用ひればこれが吾々三千年の文明を築き上げたと申しても宜い性質であるのでありますが、斯ういふやうな反撥性を有つて居るのであります。何か世の中に不平が起ると、その反撥性が極度に出て來るのであります。その代り負けず魂も茲から起るのでありますから、殊に戰爭などに於てその反撥性が强いのであります。この反撥性、一種の感激性を有つて居る。殊に青年の人にはさういふ氣持が多くあるのであります。その人々の心情を煽動し、又刺戟するといふやうな點に於ては、實に不思議な力をマルクスの本は有つて居るのであります。たゞそれを讀みますと恰も麻醉劑を嗅いだやうに、たゞ現狀破壞を盲進せしめるのであります。あらゆる現狀を破壞しなければ止まぬといふやうな、非常な狂暴性を帶びるやうな、一つの酒を飲んだやうなものであるのであります。

斯ういふ譯であるから、他の國には斯ういふものは一部分には起つて居りますけれども、國民全體がこの事に就いては無關心である際に於て、我國の殊に青壯學者の間に於て、この百年前の歐洲の思想が流行するといふやうな不思議な現象をあらはしたものだと思ふのであります。

人間社會といふものは、人間が既に不完全なものであるから、社會も必ず完全なものとは申すことが出來ないのであります。日本の現在の社會に幾多の缺陷があることもこれは吾々は認めない譯には參らない、この點は餘程能く反省して行かなければならぬとは考へますが、この缺陷が火に油を注いだやうな工合になるかも知れませぬけれども、社會の缺陷が共產主義のやうなものを產出したとは吾々はどうしても考へることは出來ないのであります。

何故かと言へば、共產主義といふものはどういふものであるかといふことを一言で言へば、私有財產制度を否認するといふことは御承知の通りでありますが、銘々の財產を平分してしまふといふのであります。ところが露西亞がそれをやつて、同じ勞働者として、熟練な技術者であつても不熟練な職工であつても同じ給料を拂つた爲に、露西亞は行詰つてしまつた。そこで今年の六月スターリンはこの制度を改正して、やはり技術者には高い俸給を拂ふことにしたのでありますが、これをするならば共產制度ではないのであります。熟練な者でも不熟練な者でも同じ給料を與へるといふことが財產の平分であります。この私有財產の制度を否認するといふことが一箇條であります。

次には親子の關係も破壞してしまふのであります。これはやはり今露西亞ではその儘行つて居るのであります。子が生れたならば取上げて育兒院に入れてしまつて、親に對して孝行するといふやうなそんな道德は昔の道德であるといふやうなことを言つて、全然親子の情といふものはぶち壞してしまつて居るのであります。これは根柢に於て、一體人間の文明といふものは何が根本になつて居るかと言へば、宗教、哲學、道德、この三つが基礎となつて居るといふことを知らない輩であります。スターリンなどは洵に愚病な男である、今勢力均衡の下に政權を壟斷して居るのでありますが、何等の教養も無い、コーカサス附近の人間であつて、たゞ人間の文明といふものは能率さへ上げればそれで宜いと考へて居る男であります。さういふ輩が、長く築き上げた道德を無視して、本當に人類の幸福な文明を打立てることが出來るか出來ないかといふことは、もう經驗をしなくてもわかるのであります。早晩あの國は亡びてしまふ國であります。兎も角も親子の情を破壞する事が第二になつて居ります。

第三には更に進んで君臣の分を紊亂してしまふといふのであります。この三つの事が主なことになつて居るのであります。それを日本の社會に缺陷があるから共產主義が出來るのだなどと、學者のやうな人までも言つて居るのは、共產主義の本體が何處にあるかといふことを知らぬ人であつて、義理にもそんな事を言ふことは出來ないのであります。一般社會主義といふものは人間の社會に於ては起り得る傾向を有つて居りますが、共產主義のやうなものが、たゞ社會に缺陷があるからと言つて起るべき謂れは斷じて無いのであります。この事に就て深く考慮を拂つて戴かなければならぬのであつて、この點が最も大事な點であります。法華經は宗教と哲學と道德を具へた教であります。實にそれを根柢にしなければ人間の文明は成立たぬものだといふことを、今にして始めて私は露西亞の文化を眺めながら深く痛切に感する次第であります。

一體資本主義、共產主義といふやうな語が曾つて日本にあつたのか。西洋人が用ひるところの語の綾に騙されてはいけないのであります。今の日本の富豪であるところの岩崎家といふものは、土佐の貧乏な士族から出て來たものでありまして、まだ三代目にもならぬ。濱口ナンといふ人は、これ亦土佐の田舍侍が出て來て天下の政權を執ることが出來たのであります。皆自分の力でありませう。日本の社會ぐ

らゐ醸通無碍な社會はないのであります。英吉利でもこんな醸通はありませぬ、英吉利は三代でなければゼントルマンの資格は與へない、一代で以てゼントルマンの資格は與へないのであります。どんな立派な人が出て來ましても、三代續かなければ立派な倶樂部にも入ることが出來ないのであります。倫敦邊りにお出になつたならば、如何に階級的に窮屈な社會であるかといふことを如實にお知りになるでありませう。亞米利加のやうな自由な所に於てもこれ亦金力萬能であつて、汽車の時間までも、一人の富豪の爲に列車全體が買切られてしまつて、自分達が豫定した汽車に乘ることが出來ない人が幾人あるか分らない、而も社會は何もこれを不思議としない。金持が金を以て買占めるのに他の者は何も言ふことは出來ない。實に不自由極まつた社會を構成して居るのであります。往來に帽子を忘れて飛出して行つたならば、直に五錢か十錢の罰金を科せられるのであります。何處へ行つても小錢の用意をして居らなければ、エレベーター一つ乘ることすらも出來ない。今日は休みだから釣に行かうと思つて釣道具を擔いで出掛けても釣をすることは出來ない。どの川でもどの堀江でも皆倶樂部があつて、一つの嚴格な繩張をきめて居つて、一年に相當な經費を拂ふ人でなければさう自由勝手に釣もすることが出來ないやうな社會が歐米の社會であります。電車に乘つて非常に不愉快なことは、外では非常に禮儀正しくやるやうであるけれども、貧乏人とか勞働者といふものは隅の方に押籠められてしまつて、手も足も出ないやうな狀態になつて居るのであります。さういふ所であるから勞働問題が大變喧しく起つて來るのであるが、日本に於て資本主義とか共產主義などといふ語は無かつたといふことを能く考へなければならないのであります。日本に於ては不思議な事には各自の私有財產制度は認めながら、一家内に於ては財產

の共有を許して居るのであります。歐米では許してない。親子、夫婦皆財產が違ふのであります。自分の財囊は別々に持つて居る。子供も大きくなれば長く親の家に居候して居る譯には參らぬ譯であります。若しも强て居らうと思へば食費を拂はなければいけないやうになつて居るのであります。さういふやうに財產の共有といふものを日本では許されて居るのであります。一家親族の爲に甘んじて連帶責任を負ふといふやうな社會が一體他に有るであらうか、無いのであります。今でこそだん〳〵セチ辛くなつて、日本の社會に於ても法律的にいろ〳〵な事がきめられて居るけれども、併し大體の根本は一家親族の爲に連帶責任を甘んじて受ける。斯ういふ社會であるのであります。

斯ういふ社會を根柢から破壞するにあらずんば理想の社會を形づくることが出來ないなどといふことは、到底言ひ得ないことであらうと思ふ。この社會を土臺にしてさうしてこれに改善を施して、だん〳〵理想の社會に持つて行くにあらずんば、これを壞してしまつたならば露西亞の如くに一千年の文化を逆轉してしまふのであります。露西亞は確に千三百年も逆轉したといふことであります。今日では露西亞の中に於てはシャツなどは得ることが出來ない。今日も彼地から歸つて來た大使館附武官が言つて居りましたが、自分のシャツなどは白耳義や波蘭の方から取寄せなければ一つも得ることが出來ない。釦が取れても釦が無い。釦があつても縫ひつける糸が無い。國民は全部裸足であつて、さうして朝から晩まで食ふことばかり考へて居る。冬でも朝寒いのに早くから食糧屋の店の前に列を成して、自分の番を待つて居る。二時間も三時間も待つて自分の番が來たかと思ふと、それでも買へれば宜いのであります。けれども、もう無くなつてしまつて買へないで歸つて來る人がある。パンを與へよとレーニンが

叫んで國を立てた露西亞が、パンの代りに石を與へて居る有樣であります。斯樣にまるで根本的に社會を覆してしまつて、千三百年の文化を逆轉してしまつて居ることを日本の人が能くこれを考へなければならぬ。

一體露西亞の事情といふものはどうしてわからぬかと言ふと、露西亞の人が國外へ出ることが出來ない、何故に出來ないかと言ふと、國境に一哩まで近づくことを禁じて居るさうであります。それから强て旅行券を得るのには三百圓も拂はなければ得られないのであります。而もさういふ旅行券を得て國境を越えます時には、全部持金を其處へ出して行かなければいかないのであります。留を持つて國外へ出ることは禁じて居りますから、全部國境の所で自分の財產を殘して置かなければならぬのであります。無論外國の貨幣を持つて國內へ入ることも禁ぜられて居りますから、國內に於て貨幣と交換して置くことも出來ない。でありますから折角三百圓出して旅行券を受けましても、國境を出る時には裸にせられて空拳でなければ出られない。その爲に外國へ行くことは全く出來ないといふやうな不自由な狀態になつて居ることが一つ、もう一つは言論文筆を極度に禁じて居るから、タイプライターすらなか〳〵打つことは困難であります。ゲー●ベー●ウーが始終見て居るさうであります。それでありますから文章を以て自分の國內の事情を世界に愬へることも出來ない。又そんな思慮は國民は有たない。朝から晩までパンの事ばかり考へて居らなければならない。他の事は一切考へることが出來ない、さうしなければ食ふことが出來ない。他に餘裕は無いのであります。さういふやうな慘目な有樣に陷つて居るのであります。

又或る人は、マルクス主義は學術的に理論的に眞理があるのではないかと言ふ人があるのでありますが、實に斯の如き曖昧なる無批判な態度といふものは餘程愼まなければならないのであります。マルクス主義は學術的に理論的に實に大謬想であります。人の世の文明を奪つて惡魔の世大邪見であります。人の世の文明を奪つて惡魔の世となすものであります。實に野蠻國に發生した極端なる社會主義でありまして、唯物史觀も唯物辯證法も又階級鬪爭も、皆露西亞に於てすらも間違つた非常に惡い事であります。日本がその學說と全く反對な實情にあるに拘らず、これを學ばんとするに至つては、尙更の大間違ひと謂はなければならぬのであります。誰が學問に國境無しと言ふのか。獨逸民族、普魯西國家の背景無くしてカントの哲學は無いのであります。祖國を追放されて外國に亡命して居つたところのマルクスも、最後までヘーゲルを自分の原理に仰いで居つたではありませぬか、マルクスはヘーゲルを自分の學說の原理にして居つたのであります。實にマルクス主義は獨逸社會主義の一種でありまして、卽ち猶太人マルクスを離れては考へることは出來ない。時代と民族との產物であるのであります。

立正大師は『一切の事は國に依り時に依る』といふことを仰せになつて居るのであります。私は最初から御遺文を拜誦した時にはどういふ意味であるか能くわからなかつたのでありますが、今になつてわかつたのであります。一體人間の文化といふものは民族を背景にして始めて起るものである。世界共通の文化といふものが若しも存するならば、それは世界が搾つて一國となつた時であります。今日のやうに多數の國が分立し獨立して居る時に世界共通の文化といふものは無いのであります。そこでマルクスあたりも時代と民族とが產んだところの產物であります。國に依り、時に依ることである。斯う立正大師が言はれて居ることは非常な名言である。その當時にはこんな思想の戰、悲しむべき戰は無かつた。

鎌倉時代には種々の思想の戰はあつたけれども、今のやうな全く文化の根柢を異にしたところの思想の戰は無かつたのであります。その際に於て斯ういふ立派な事を言うて居られるといふことを、吾々は深く考へなければならぬのであります。

又立正大師は

『彼の國に宜かりし法なればとて此の國にも宜かるべしとは思ふべからず』

斯う仰せになつて居るのであります。あちらの國に於て善い思想であるから（法といふのは思想であります）この國に持つて來れば宜からう。さう早合點をしては大變な間違ひを起すといふことを誡められて居るのであります。

茲に於て私は明治の御維新の當時を追懷しない譯には參らないのであります。本多上人が常に言うて居られたのでありますが、日本の文化の正統は、儒教、佛教、神ながらの道、この三道貫串の教といふものが文化の正統を流れて來たのである。然るに德川の末期に於て、佛教に集まつたところの三道は、それから國學といふものが涙出し、又儒學といふものが分派して、遂に三道貫串の教が亂れてしまつたのであります。殊に德川末期に於ては排佛棄釋の論が盛に起つて、大事な佛教は塵芥の如くに壞されてしまつたのであります。この大事な時にこの大きな、鬼に金棒とも謂ふべきその金棒を取られてしまつて居つたのであります。その時に明治御維新が起つたのであります。この異つた文化がやつて來た時に日本の文化が支離滅裂になつて居つたといふことは、今から考へましても洵に憂慮に堪へない狀況であつたと思ふのであります。

その結果がどういふことになつたかと言へば、法華經では異なつた文化が交る時には折伏、攝受、開顯といふことをしなければならぬと深く誡められて居るにも拘らず、折伏といふものは明治維新に於て歐洲文化に對して行はれて居らなかつたのであります。隨つて開顯といふことは出て來ない、隨つて統一といふことが出て來ない。統一團といふ名稱は、さういふ意味合を籠めたところの統一團であります。その文化を統一するといふことが出來なかつたのであります。何故出來なかつたかと言ふと、今申したやうに折伏といふことがなかつたから、明治維新の時に、異なる文化を折伏しなければならぬことを忘れて居つたからである。そこで攝受が起つて來ない、開顯が出て來ない、遂に統一するといふことが出來なかつた。一體大和民族の使命は、世界の文明を選るといふのであつて、世界の文化を選つてさうして最勝の文化を打建てるといふのが吾々民族の理想でありますが、それが出來なかつた。さうして御維新を過ぎて明治、大正、昭和とやつて來た場合に、今更の如くとの御維新の時に折伏が出來なかつた爲に、歐洲文化の餘弊を痛切に受けなければならぬといふ結果に際會したのであります。統一團員は長い間この事に就ては本多猊下から承つて居つた筈であります。どうかこの事はお互に痛切に考へて、吾々の先輩が維新文化を開拓して下さつたことに對しては滿腔の感謝を捧げるのでありますけれども、吾々後輩としたならば、先輩の大きな誤謬を正して行くことが先輩に對する報恩だと考へるのでありますから、どうか諸君は徒に私が先輩を罵るものでないと考へられて、この日本の文化の大きな缺陷に向つて統一團の活動を十分に發揚して戴きたいのであります。

それ故に民族が發展するといふのは、民族を背景とする文化を外に擴げることであります。思想文化を樹立することなくして民族の發展を冀ふことは出來ないのであります。滿洲蒙古に於て大和民族を發展せしめん爲には、たゞ財力、たゞ武力だけではいかぬのであります。先づ日本の思想化を以て急務と

するのであります。日本の文化を滿蒙の地に打立てゝ、彼等が文化的に降服するにあらずんば、大和民族の發展は得て望むことは出來ないのであります。それは二十五年の歴史が如實に物語つて居るのであります。將來吾々はこの日本の生命線、日本の文化を中心にするところの滿蒙の地を固く確守しなければならぬといふならば、茲に日本の文化を打立てなければならぬ。往てこの思想を以て征服しなければならぬのであります。

そこで獨逸文化の缺陷を申上げなければならぬことになつたのであります。私は獨逸文化を專門に研究した者ではありませぬ。たゞ法華經を通じて文化を見たゞけでありますが、私の觀るところの獨逸文化の缺陷は、獨逸人が人間の力を過信して居るといふことであります。それは根源があるのであります。これも本多上人が屢々言つて居られた事でありますが、歐洲文化の中心である獨逸文化は何處から出て來たかと言へば、インマヌエル・カントから出て來たと言つて宜いのであります。カントはどういふ哲學を唱へたか。二元哲學を唱へたのであります。哲學といふものは一元でなければならぬのであります。哲學といふものは一元でなければならぬのでありますが、彼はどうしても二元になつてしまふのであります。理性的判斷を以て宇宙萬象を見た時には神は無くなつてしまひます。感覺的知識を以て第一の知識だと獨逸人は考へて居りますから、この感覺的知識を以て宇宙を見た時には神は無くなつてしまふのであります。併ながら神無しとすると道德が立ち行かない、宗教が立ち行かないから、世道人心の爲に宜しくない、カントは實踐哲學に於ては神有りと認めると言ふのであります。即ち實踐哲學と理性批判と二つの哲學を唱へ出したのがカントであります。これは非常に間違つて居る。二つの哲學を唱へ出したといふことは非常な間違ひであります。やがてこの哲學は科學文明の爲に打破られて、今のやう

な獨逸の科學萬能の思想が出て來たのであります、兎に角抑なべて獨逸文化の缺陷といふものは人間力を過信して居るといふことから來たものであります。さうしてこの玄妙不思議な宇宙——法華經の方便品で說てあるのがこの宇宙觀でありますが、この宇宙の萬象を、たゞ感覺的知識に依つてのみ究明せんとするところに彼の謬想が潛んで居るのであります。獨逸文化の缺陷といふものは、斯ういふ大きな宇宙のやうなものを感覺的知識に於て究め盡さんとする所に潛んで居ると申して宜いと思ひます。

斯して編出されたところの學理であります。カントも一つの哲學を編出し、ヘーゲルもその通りであります。唯心辯證法を唱へ出して居ります。ヘーゲルは一元哲學でありますが、唯心辯證法といふものを唱へ出して居ることは御承知の通りであります。さういふ學理を編み出して居るのでありますが、その編み出した學理は人間が使ふのでなくして、やがてこの學理の爲に人間が支配されてしまつたのであります。自分ばかりが支配されるのでなくして、やがて人事百般この學理の命ずる儘に運行せんとしたのが獨逸民族の通弊であります。マルクスといふ男は一つも勞働したことの無い、一遍も社會運動をした經驗を有たない男であつて、たゞ自分で考へて自分で編出した學理の爲に支配された男であります。それは獨逸の學者が皆やつて居ることであります。茲に獨逸は幾度も興つて燦然とした文化を世界に現して居つたのでありますが、幾度も蹂躪されて幾度も興つたのでありますが、いつもそのたび毎に彼は敗れて居るのであります、それは獨逸文化の缺陷であります。歐洲大戰ではあのやうな悲慘な敗北をして痛切に失敗したのでありますから、なか〳〵當分は獨逸國民の勤勉と雖も復興は難しいだらうと思ひますが、又いつかは復舊するでありませう。併しこの誤謬を繰返して居るやうでありますから、又敗れ

てしまふだらうといふことを私は想像するのであります。

不幸にしてこの學風を取容れたものが日本の學者であります。獨逸の學問を學び得たものが日本の學校であります。であるから寧ろ大學を中途で廢めた人に偉い人が澤山出て居る。不思議な現象を呈して居ります。併ながら今日はあらゆる方面に於て模倣といふものを脱して創造に向つて進まんとする時でありますから、學者ばかりが西洋人の後塵を拜して居つたならば、私は日本の前途は開かれぬと思ふ。眞に學者の方々がこの點に於て反省して貰はなければならぬのであります。海軍の方で申しても、今日に於ては英國から日本に軍艦を造ることを習ひに來て居るのであります。少しも英國の軍艦などは海軍では手本にも何もして居りませぬ、何處の國も手本にしては居らない、獨自のものが日本民族に依つて創造されて居るのであります。あらゆる發明も今やゝ駸々として出て居るのであります。學者のみが西洋人の精粕を嘗めて居るやうなことではいけないのであります。

マルクスが出た時は、而も當時の獨逸は恰も日本の維新前の狀態と變らない封建時代であつたのであります。極く文化が分裂して居つて非常に低級であつた。さういふ狀態であつた爲にマルクスは只管に政治的、社會的の革命を高調して居つたのであります。心から彼の學問學說は決して治國平天下とか、或は人類愛とか、祖國愛とかいふやうな高尚な考から出發したものではないのであつて、たゞ自分の私怨を學問的に報復したいけであります。彼ほど理論を弄んだ學者は少ないと思ふのであります。あゝいふ理論ばかりを弄んだ理論家は今の學者の中にも尠ないと思ふのでありますが、自分の揑ね上げたところの學問に依つて自分を先づ縛り上げてしまつた、さうして世界全體を燒拂はんとしたものであります。

す。

マルクスが言ふやうに革命は資本主義爛熟の結果であるとするならば、第一番に英國に起つて來なければならぬ。少くとも今に於ては米國に起らなければならぬのでありますが、英國にも米國にも少しも起つて居らない。少しも起らぬとは言へませぬけれども、さう大した勢ひで起つて居るとは認められない。又マルクスが言ふやうに、さういふ事は歴史的必然性であるから、何も人力を以て、或は法律を以て止めようとして止めることが出來ないのだ、斯ういふ事を言つて居りますが、それならば共產黨あたりの運動といふものは意味を成さないであります。露西亞革命は資本主義爛熟の結果でないことは、これは誰が見ても明かな事であります。露西亞の國は一體封建時代を有たないのであります。今の憲法政治時代も有たないが、それよりも封建時代も有つて居らない、中世紀の狀態に居つたのであります。さういふ國體の中からあゝいふ革命が起つたのであります。それで露西亞は政策として移民を西伯利の方々に散布したものでありますから、方々に十軒とか二十軒の村が出來た。二十軒や三十軒の村では學校を造ることが出來ぬから、露西亞の人は八割までは無學であります、自分の名前が三字で成つて居る人でも、三字名前すらも書けない人が多い。モスコーといふ所は比較的文化人が住んで居る所でありますが、そのモスコーに於ても六割以上文盲人があるといふことであります。さういふ所であるからあの革命が起つた。獨逸のヴントといふ學者は今の獨逸の狀態を慷慨して言ふのに、『資本主義を破壞する目的の爲に獨逸の革命をやつたが、その結果自分の資本は壞されてしまひ、今では外國の資本に國を擧げて皆征服されてしまつたのである』と慨嘆して居ります。英國に於てマルクス主義が流行しないのは、英國民は革命を以ては何物も得られないといふこと

を痛切に信じて居るからであります。獨逸人も佛蘭西人も革命といふものは最惡なものであるといふことを考へて居るのであります。露西亞では今盛にお寺を壞して居ります。そのお寺は倫敦のセントポールといふお寺に匹敵するやうな大きな寺院で、四十年も掛つて當時の金一億二三千萬留を投じて造り上げた大きな寺でありますが、その寺を今や壞しつゝあります。斯ういふくだらない事をして居るのであります。さういふ事を見せつけられてしまつた歐洲の人は、もう革命ぐらゐ馬鹿氣たことはない、初めは煽てられていろ〳〵な事をやつたけれども、惡い人ばかり先に頭になつてしまつて餘のいゝ加減な者は皆首を斬られてしまひ、さうして後に殘つた者は懲役勞働といふものを科せられることになつてしまふ。それを如實に見て居るから、こんな馬鹿氣た事をと言つて誰も見向く者が無くなつてしまつて居るのであります。マルクスその人でさへも、彼が六十歳の時に斯ういふ事を和蘭の勞働大會に於て言うて居ります。『自分は革命といふことを力說して居つたけれども、だん〳〵年を取つて考へて見ると、各國々の事情に依つて革命などをしなくても濟むならばしないで宜しい』といふことを聲明して居るのであります。

エンゲルスといふ人はマルクスと共に共產主義を高調した人でありますけれども、これは金持の息子であつて純粹の獨逸人であります。この人は革命といふことを言はない。獨逸の勞働者は獨逸の古典哲學の繼承者でなければならないといふことを申して居ります。又世界革命の宣傳家レーニンは大露西亞人の民族的誇りである。斯樣な事を叫んで居るのであります。然るに我國の共產黨のみは少しも祖國愛の匂ひがしないのであります。私は最近四五回特別傍聽を許されて共產黨の公判を傍聽して居りますが、彼等は少しも祖國愛の匂ひがしないのであります。自己の國土を愛せず、自己の文化を誇ることを知らないで、どうして世界の人を愛し世界の人文に寄與することが出來るか、さういふ事は出來ないのであります。これに依つても彼等は日本國土の所產ではないのであります。ソビエット露西亞のお先棒を承つて居る一つのロボットのやうに見える、一つも日本人といふ感じはしない、又人間らしく見えない、人間が作つたロボットのやうにしか見えないのである。

凡そ人類を有產階級と無產階級とに分けるといふことが不思議であります。分つことが出來ないものを階級といふ名を附けて分ける、さうして相鬪はして、その結果は勞資共に共倒れになつてしまつて居る。產業はその爲に衰退してしまつて居る。日本は實に大事な時であります。歐洲の文明國は日本の產業の勃興することを極度に恐れて居ります。どうも日本人は非常に器用でありますからズン〳〵產業が進出して來る。而も日本の特色は大工業が無くして九割までは小工業であります。五十人以下の職工を養つて居る小さな工場から成つて居るのであります。さうしてそれがだん〳〵進んで白人の產業と戰をしつゝあるのであります。この大事な時に僅かばかりの日本の資本家——日本の資本家などといふものは取るに足らぬやうなものでありますが、さういふものを相手にして戰をするといふ結果、その爲に自國の產業は萎微して振はないやうになつてしまつた。今日の不景氣といふものも政府が言ふやうに、世界的の影響ばかりから來て居るものではない。政策も惡いのでありますが、勞資の階級戰が禍ひを成して居るのであります。過日社會局長官に會つて、これはもつと取締らなければいかぬと申した時に社會局長官も同感であつた。さうして自分も近頃此の位地に就いたものであるから能く知らぬけれども、統計を採つて見たところが日本は世界第一の

ストライキの國である。昨年だけでも三千餘件あつた。世界にこんな國は無い。世界で一番ストライキの多い國である。所謂勞資の爭つて居る國である。その爲に折角伸びんとする日本の產業が不振に陷つてしまふ。而も他の亞細亞は物の數に足らぬ。白人の產業を向ふに廻して日本だけが戰つて居るのである。餘程この狀態は苦しい狀態であります。獨逸の軍艦などを御覽になつても分る。橫濱邊りへ來ても日本の品物は買ひはしない。自國の物は買ふ、店に行つて獨逸の物なら高くても買ふが、日本の品物は煙草でも買はない、大概の物は獨逸の軍艦は自分で持つて來る、さうして成たけ外國に金を落さぬやうに圖つて居る白人であります。さういふ國難な狀況の下に產業戰といふものが思想問題に列んで行はれて居る矢先であるから、この日本の國情に於ては勞資の戰といふものは餘程大きな禍ひをして居るのであります。この事に就ては餘程考へなければならぬのでありますが、さういふ事を煽て上げて居るのが彼等であります。

今日露西亞の狀態を見たならば分るのでありますが、少しも勞働者には自由といふものは與へてないのであります。甲の工場から乙の工場に移轉することすら許されてないのであります。タイピストのやうなものも强制執務を命じて居る、私には働くことが出來ないからと言つて斷る、するとタイピストの免狀を取上げてしまふ、さうしてその免狀を取上げた者からは非常な高い稅金を取るのであります。だから露西亞の政府から言ふと、さういふ事をして澤山の職を有しない人を造り上げることが國費を增す所以であります。さういふやうに勞働を强いて居るのであります。さうして露西亞は農業國でありますから、農業を盛にしてそれを外國へ出して金が這入る。所が農民は餘計な物を作ると皆取げられてしまふから、自分の食ふだけしか作らない。さうすると外國へ出すことが出來ないから、己むを得ず勞農政府は共同農場といふものを編出して、一つの工場組織のやうに農場を經營して、さうしてその中に農夫を打込んでしまつた。所が貧農ならば打込まれても差支へないが、金持の農夫は自分の有つて居る財產を全部そこへ提供しながら、何等貧農とは待遇を異にしない、そこで敢然として富農は反對を表した。所が勞農政府から見れば、それが反對すれば自分の國營農業は行ふことが出來ないのであるから、ゲー・ペー・ウーの力を藉りて昨年四月より、富豪で言ふことを聽かない者は殺してしまつた、何百人殺したか分らぬ。老人は大抵殺してしまつたらしい、屈强な奴は全部財產を沒收して、國法に遵はぬと言つて刑罰に處して、全部裸體にしてこれを西伯利の森林に送つたのであります。さうして西伯利で材木を伐らした、勞銀を拂はないのであるから出て來た材木は無代であります。その安い物を以て亞米利加に盛にダンピングをしたのであります。そこでこの間も新聞に出て居つた通り、亞米利加はさういふ事をされたならば自分の材木の市場が亂されてしまひますから、さういふ道德的ならざるところの强制勞働をして造り上げたものは國際信義上買ふことが出來ないと言つて、ボイコットを喰はしてしまつたのであります。さういふやうな亂暴な事をやつて居る、折角金持になつたと言つても、農夫が有つて居つた家畜は皆取られてしまふのであるから、たゞ取られるのは口惜しいと言つて、全部有つて居つた家畜を殺してしまつた、それが昨年四月の事である。今日はモスコーでは牛肉を得ることが出來ない。そこで專ら魚肉を國民が食ふやうに仕向けて行かなければならぬ時代になつた。そこで北洋漁業に於て日本がやつて居るところの漁場を取り上げて、さうして魚を盛に內地に輸入して今の食糧の缺陷を補はうとして居る。こんな亂暴な事をあの國內でや

り居るのであります。それを共産黨の公判廷に出て來るやうな輩は、我等の祖國ソビエット露西亞とかいふやうなことを言つて、さうして日本の國を呪つて居る有樣を見ても、迚も吾々はたゞ默して居る譯には參らぬのであります。

所詮この關東震災に於て日本の勞働者は露西亞から救はれたものではないのであります。日本民族の一通りならぬところの努力の結果に依つて日本が復興したことは御承知の通りであります。所詮は民族生活は通れ得ぬところの人類の運命であります。民族を離れてたゞ勞働者の階級とか金持の階級といふものが他に存して居らないのであります。共産黨が多數の民衆の力を藉るにあらずんば自分の慾を遂げることが出來ないから、最も多數を搾して居るところの勞働者の爲に自分は奮戰して居るのであるとか、或は小作人の爲に力戰して居るのだといふ風に言うて居るのでありますか、彼等がソビエット露西亞に日本の皇國を賣つた時にどんな狀態が起るかと言へば、日本の勞働者はその同胞の國人と共に悉く露西亞のゲー●ペー●ウーの監視の下に置かれてしまふのである。又彼等自身も直に死刑に處せられるであらうと思ふ。何となれば日本のやうな寬大な穩健なる社會といふものは無いのであります。亞米利加であれば共産黨は何にも裁判をしないで船に載せて島流しにするのである。島流しにするのは宜いけれども、途中で船を沈沒さしてしまふのであります、この間も一隻の船が島に到着しないで途中で沈沒して居ります。露西亞に於ては反革命運動者は一つも裁判をしないで殘酷な死刑に處して居る、どういふ死刑かと言ふと水浸しにして、だん〳〵水を增して終ひには頭を越すやうにして、水の中で人を殺してしまふ。さういふ殘酷しいところの死刑に處して居るのであります。然るに日本の共産黨の連中は寬大な恩惠を受けながら、今やいろ〳〵獄中の生活を改善して貰ひたいといふやうな勝手な熱を吹いて居る、國土仁人のやうな振をしてハンガー●ストライキといふやうなことをやるならば、日本の裁判所はこれに卵と牛乳を與へてやる、斯ういふやうな情け深い待遇を被つて居ります。又少し不快ならば官費を以て醫者が診斷して呉れるのである。若しこれが露西亞であつたならば、碌々裁判もしないで今言ふやうな殘酷な刑に處せられてしまふだらうと思ふのであります。

私は最近數回公判を傍聽して、さうして彼等共産黨の言うて居る所を能く聽きますと、皇國を罵り、愛國を嘲り、剩へ待遇の改善を聽而も無く怒號して已まざる有樣を見ますと、日蓮聖人が言はれたやうに、『天魔の國に入つて醉へるが如く、狂へるが如し』と言はれて居りますが、實に天の魔が國の人の中に入つて醉へるが如く狂へるが如しといふやうな狀態であることを思ふのであります。彼の人達のお父さんお母さんといふものは何處に居られるのか、又兄弟姉妹といふやうなものは無いのか、如何なる因緣を以てこの皇土に生を享けたのであるか、彼の人の過去は如何、未來は如何といふことを考へますと、私共も思はず涙の溢れるのを禁ずることが出來なかつたのであります。佛敎では與同罪といふことを申して居りますが、日本國民の一人として洵に自責の念に堪へないのであります。さはさりながら『日は東より出て西を照す、』人類文化を選ることは大和民族の使命であります。鑑つて大八洲神國日本を私は仰ぎ見たのであります、さうすると不思議なことにそこに金剛不壞の確信と、無限の恩寵が滾々として湧き出て居つたことに、また感喜の涙を注いだのであります。

要するに法を思へば國といふことが必ず出て來るのであります。日蓮聖人も『法を知り國を思ふの志』といふことを言はれて居りますが、これは今更附加

へたものでなくして、法といふことを考へ、思想といふことを考へた時に、必ず又國といふことが出て參るのであります。どうかこの日本の實に立派な國體に目覺め、この大事な正法を護持して、以て世界の文化に貢獻されるやうに、さうして吾々同胞の中の斯ういふ思想的に惠まれない人を救はなければならぬといふ重い責任を痛感されんことを希望して、この講演を終る次第であります。（文責在記者）

（昭和三年十二月第四百〇五號より、都合にて休載中の　日生上人御講述聖訓摘要を、今回完結せしめておきたい念願から、順次掲載させて頂きます、可成多量に載せたいと考へて居りますが、紙數の關係もあつて充分各位の御滿足に酬ひ得られるや否を懸念致して居ります、希はくは嫌め御諒察下さつて御精讀あらんことを）

聖訓摘要

聖應院日生上人

光日房御書

この光日房御書の最初の一節は（縮刷遺文錄千四百十四頁）講するまでもありませぬ、能く分つて居ることでありまして、文永八年の九月に龍の口の御法難があり、引續いて佐渡ヶ島への御流罪と相成りましたが、日蓮聖人は親孝心の方であつて、鎌倉に居る時分にも始終房州のことを戀しく思つてお墓參りもしたいと思ふたけれども、いろいろ世間の人の思惑もあり、房州へ行つても亦日蓮が逃げたのではなからうかとか、いろいろ惡評まで立てること故に、自分はお墓參りも法を弘める熱心に騙られて思ひながらも怠り勝であつたのである、けれども今度佐渡ヶ島に流されたに就て考へると、そんな世間の思惑や、また法を弘めるに忙しかつたといふことの爲めにお墓參りをしなかつたのは寔に殘念に思ふ、何と云つても鎌倉であるならば、いつでも行かれる譯なのである、鎌倉は房州と近いことでありますからして、兎に角海を渡つて上總に行つて、それから向ふの切尖に行きさへすれば直ぐ房州だから、毎日一度はお墓參りをしやうと思へば出來ぬことはなかつた、今佐渡ヶ島に流されてしまつては、勝手に島を出ることも出來ぬし、房州といへば遠いことである、到底お墓參りも出來ないことである。昔、蘇武といふ人が胡國に流されて十九年の間雪の中に置かれて、故郷を戀しく思うて暮したことがある、日本の安部仲麿が支那に行つて抑留されて、さうして向ふで月を見て、この月は故郷の人も三笠山で見て居るのぢやというて泣いたことがあるが、日蓮もやはり鎌倉のことを考へ、房州のことを考へては佐渡ヶ島に月を見るにつけても涙の種であるといふことをお書きになつた、どうぞ鎌倉に歸つて、お墓にもう一度お參りしたいと思ふが、鎌倉殿は日蓮を憎んで、どうしても許さぬといふ御決心だと聞いて居る、たとへ大海の底の重い〳〵石が浮ぶことがあつても、空から降る雨が地に落ちないやうなことがあつても、日蓮は鎌倉へは生かして還さぬと考へられて居るといふことを聞くのであるけれども、どれほど憎んで海の底の石が浮ぶことがあつても日蓮は生かして鎌倉へは還さぬ、空から降る雨が地に落ちぬことがあつても日蓮は

生かして鎌倉へは還さぬと仰しやつても、日蓮は法華經の信仰に依つて、法華經の卓越せる御利益に依つて、又日月われを照してお出でなされるこの光明を受けて、必ず生きて鎌倉に還る、又父母のお墓にも參詣を仕ることが出來やうと心强く考へて居るのである、こゝでは「心强く」と仰せられて居るが、他の御文章には必ずや生きて鎌倉に還る、その時は弟子の者にも必ず面會をするといふことを斷言せられて居る御文章もあるので、鎌倉殿がいかに憎んで居つても、日蓮は生きて鎌倉に還つて見せるといふことを仰せられた、この强い信仰はいかにも大切な點でありまして、妄りに猛進をやるのは宜くありませぬけれども、正義を守つて事に當る時分に於ては出來ないことも出來るといふ信仰は非常に必要なことであります。これは私は日本の大和魂として祖先以來傳つた精神もやはり同じものだらうと思ふ、楠公が八百人の兵をもつて北條百萬の軍を敗るが如く、出來ないことをし遂げるのがそこが大和魂である。

いかならんことにあひても撓はまぬは
わが敷島の大和魂

どんな事に出合つても、普通人なら腰を拔かすが如き事でも、それを切拔けて行くところに眞の日本人の力といふものがあるのである。いま世界の大勢を見ても、どうしても日本は壓迫の中に屈するより仕方のない情勢にあるかと考へますが、これはどうなつてしまふか案せられる譯でありますけれども、そこにこの大和魂をもつて日蓮の所謂鎌倉殿には生かして還さぬと仰しやるけれども、屹度生きて還つて見せるといふこの强き信仰が要るであらうと思ふのであります。今の日本人には或る一種の不安が襲うて參つて、勞働問題なども形を變へて、今までの荒らいだ騷ぎはなくなるけれども、今度は氣落がして、さうしてマゴ〳〵するやうなことの爲めに、心配事がある爲めに仕事が手に着かぬやうなことで、また變つた方面に弊害が起つて來はせぬかと思ふのである、それはどちらも善くないことで、少し勢ひがあれば腕捲りして拳を振るし、少し困つた事があれば青息吐息で青菜に塩を振つたやうになるといふことは、これは褒められた事ではないのである、得意の時代に於ても侮らず、失意の時に於ても恐れずといふ、そこに眞の精神の力を見る譯である、それには日蓮聖人の爲さつた事などは誠に立派な手本である、佐渡ヶ島に流されて、雪の三昧堂に閉ぢ籠められて着る物もろくにない、戸の隙間からは雪を交へた冷い風が吹き込む、大抵な者なら弱つてしまつて泣きたくなる所を、鎌倉どのは海の底のちびきの石が浮ぶことがあつても日蓮は還さぬと仰しやつても、日蓮は必ず生きて鎌倉にも歸り、父母のお墓へも必ず參詣するといふ强き決心を現はされた、負くべき時に負けないといふ、そこが非常に大事な所である、蒙古が來た時分にも、上下人心惴々として恐怖を抱いた時、日蓮は小さな蒙古が大きな日本に來たさうなが、何も心配することはない、我れ日本國の柱となり、必ずや蒙古などは日本のこの國にどうすることも出來ないやうにするといふ强き力をお示しになつた、どこから風が吹いたか、伊勢の神風

か、法華經の御利益の風か、それは神秘のことであるから分らぬ、喧嘩して見たところで、裁判に訴へたところでどちらが勝つか負けるか分らぬけれども、兎に角伊勢の神官は別にその時分、何も憂へることはない伊勢の神風に依つて蒙古を打敗るからとは言ふて居らないのである、手くらゐ叩いたか知らぬけれども、別に何もやらない、ひとり日蓮聖人は蒙古の大軍が襲來しても、なんな小さな蒙古勢が來たッて恐るゝに足らぬと言つて居られる、この關係から行くとどうも法華經の方から吹いた風といふ方が、前後の關係からまことに明かなやうである、伊勢の風も法華經の風もしまひは一つぢやけれども、たゞボカーンとして居つて、風ばかり伊勢の風だと後から言ふなどいふことは面白くない事ぢや、こちらは法華經の風でなくて伊勢の風でも、緣の下の風でも吹きさへすれば宜いからどんなことでも宜いけれども、蒙古が來た時に恐れを懷かなかつた、その難に泣んで屈せざる力といふものは日蓮に認めなければならぬ、戰ひに恐れを懷いたならばそれ切り駄目になつてしまふのであります。バルチック艦隊が來た時に東鄕艦隊は「敵艦見ユトノ報知ニ接シ是ヨリ出動敵艦ヲ撃滅セントス」といきなり大本營に報告せられたものである、敵が來た、宜し、これから撃滅するといふ、この撃滅の二字、既に敵を呑んで居るといふ譯である、その敵の舳艫相啣んで威風堂々たる樣子を見て、とてもこれはたまらぬ、縱し勝つにした所が、大砲を減茶苦茶に撃たれて俺の頭に中るかも知れないといふやうなことで、ブル〳〵ッとしたならば駄目である、それが先づ飯を食つてゆつくり始めやうといふ、敵艦見ゆとの報知に接して非常な勇氣を以てこれに臨んだ、そこが一番大切な點である、今の日本人はつまらぬ所に元氣があるやうです、燒打をしやうとか石を打つ突けやうといふ時は空元氣が出るが、サア國家の大事となると腰を拔かす、實に發揚する時も間違つて居るし、又これを持ち耐へる時も間違つて居るやうに思ふのである、一つ間違へば皆間違ふものであると思ふ、突つ張らねばならぬ時に後ろに逃げたり、後ろに寄つて撓めねばならぬ時に勇氣があつたりする、丁度下手な力士と同じで、突つ張るべき時に突つ張らないで、突つ張らないでいゝ時に突つ張つて投げられるやうなもので、日本人の元氣の出どころが違ひはしないかと思ふ、つまらない事にワイ〳〵言つて出て來るけれども、この大事に臨んでは割合に萎微振はぬやうな樣子が見える、これはどうしても日蓮聖人の魂を鼓舞して國民に服させねばならぬ時が來た譯である。（次續）

謹告

宗門の傘下にかくれて、日生上人の正系たる統一團本部　統一團協賛會或は知法思國會乃至遣稿出版等の淨業を中傷讒誣せんとする不知恩逆路子も在るかに見受け候へ共　吾曹は一切無障礙　唯一意專心　日生上人の遺命を遵奉し精進可仕玉石混淆なき樣致度一應謹告仕候也

統一團本部

東京府品川妙國寺

日生上人を憶ふ

（其四）

三人三様の俳句

（本多日生師の逸話の四）

松尾清明

今から三十餘年前ほどの事である、品川妙國寺に、清水梁山　山根青村の二師及び予の三人落合ふ、談は淨土眞宗論に就て上下す、梁山師曰く『一句出來た、御命講や牛肉食つて議論かな、これはどうぢや』と興じたことがあつた。蓋しこれは梁山師の處女作ださうな。

翌日本多上人はこれを聞かれて、元來俺は俳句といふやうなものは嫌いぢや、けれど皆がやるからやれんことはあるまい、大體俳句の歴史はどうぢや、その作り方はどうぢや、作例はどうぢや』これは予に問はれたる言葉であつた。予は是れに答へることがあつて、其角の句に、南無妙や法の蓮の華經（日蓮上人一代圖會壹の卷にあり）といふのがあり、尙搗吟に、あまのりやかたちがひなるうらめしさ、のあることを以てした。上人は出來たと云はれつゝ紙片に『天何を云ふや四時運行茄子生る、鳳凰山人』と記るされた、これは上人の處女作で又終生の絶句であつた。

其後東京の予の宅で嵐雪會を催ふした時、野口日主師來會して處女句を一句吟ぜられた『十如是を縱横に讀む嵐雪會』といふのであつた。

二十年程前、大阪朝報選者故墨水（子規の弟子）と

會つた時、本多上人のさきの句を示したところ『この句、達人の破格の句か、冠頭破格にして無理ならず、末五茄子生るは最もよし、鳳凰とは誰か』『東京の本多日生師なり、俳句は素人である』『あの有名な雄辯家の、フーム』ヅブ素人でも達人孰れにも通ずるか。

三人ながら素人の處女作にして絶句、各々面目あり性格に依つて特色がある。

嗚呼本多日生上人

工學士　寺尾與三

今年は日蓮聖人御入滅六百五十年だ、又立正大師諡號宣下滿十週年の紀念の年だ、世は愈々濁亂、宗教打倒の聲起つて、既成宗教は清算され、本化別頭の宗教たる、日蓮主義の時代幕あきとなつた。此年に突然、日蓮門下の第一人者たる明治大正昭和の三時代にかけての教傑、本多日生上人を失ひ、つゞいて又佛蹟巡禮、歐米諸國に日蓮主義行脚をせられた野口日主上人を失つたことは、日蓮門下だけの損失ではなく、日本國家の一大損失である。

私は大正元年九月、野口日主上人の紹介で本多猊下に淺草統一閣で初めてお目にかかつた。それ以來講妙會員として、毎週土曜日に一回、日蓮聖人の御遺文の講義を聞き、天晴會地明會等の講座にもつらなり、統一閣員、知法思國會にも加はりいろ〳〵の機會でいろ〳〵と教へを頂いた、私にとつては開導最初の恩師である。

殊に忘れられぬ事は大正三年春、日蓮門下各派聯合の大講演が日生上人の肝入りで神田區一橋の高等商業學校の講堂で行はれた時、日生上人と、田中智學先生との講演が、清水梁山先生、脇田僧正の話と共に今猶、耳朶に殘つて居る。又其夜、九段の富士見軒に懇親會が開かれた時、何でも日蓮門下各派は合同統一せねば大聖人に對して各々、相すまぬでないかとの話が席上各所に起つた。其後本多猊下は各派管長宗務當路者を勸說し熱誠遂に之を動かして遂に其年十一月八日、聖祖鶴林の靈地たる池上に日蓮宗小泉日慈管長、日蓮正宗阿部日正管長等を初め各派管長並に在俗の日蓮聖人鑽仰者たる天晴會重鎭者

の立會の下に最初の統合規約申合せが行れるやうになつた。其直接動機を考へて見ると、之れは其頃天晴會員吉田珍雄氏から承つた話しであるが、其前年本多猊下は、野口日主上人、吉田珍雄氏初め數名の人々と身延山祖廟に參拜せられた。其時小泉日慈上人は日蓮宗管長であり、また身延山法主であられたが、丁度、在山中で、本多上人と相共に相携へて祖師堂御草庵跡、思親閣等の參拜は迚も宜敷かつた。之れは秘密だがやがて各派統合に對つて發表せられる時機であつたらうかと、富士見軒の懇親會の時廊下で自分にさゝやかれた。

大正四年夏、日本橋倶樂部で統合發會式、門下有志大會、夜は兩國福井樓の懇親會、つゞゐて統一閣に於ける二週間の統合講習會が行はれ、統合期成會や統合翼賛會やも成立したが、惜しい哉時機未熟、魔障百出、永續せなかつたやうたが一度まかれた此種子は、きつと再び芽萠えると思ふ。

この統合講習會を終りとして、私はしばらく本多上人に會はれなくなつた。それは大正四年八月私は九州の佐賀市外にあゑ佐賀セメント會社諸富工場に

動務するやうになつたからである。大正八年にはセメント會社をやめて、南滿洲鐵道會社鞍山製鐵所員となり、しばらく八幡製鐵所に居たが、つゞいて滿洲に渡り、大正十三年秋、會社をやめて再び東京に來るまでの間に、たつた一回、猊下にお目にかゝつた、それは大正八年夏九州大牟田市に本多猊下の講演會あるを知つて、出席し其夜の夜行列車で八幡まで同車したのであつたが。猊下は列車に入るとあの大きな身體を寝台車ならぬ客車に横たへて大鼾を出して休まれたので、親しくお話をすることが出來なかつた。

大正十四年以後、ほんの四五回しかお目にかかつて居らない、場所は統一閣と牛込の常樂寺、最後にお目にかゝつたのは、昨年秋統一閣で、日曜講演のあつた時、猊下は、

『君の書いた佛教童話「天の花地の花」あれは一寸見たが、なか〳〵よい本だ。よくかいたね』、とほめられたのには恐縮した。其時、佐藤中將、岩野少將も居られて、日蓮門下各派の覺醒談やいろ〳〵話があつたが、いつもの猊下に似せぬ少し弱さを感じたやうに思へる。それがお目にかゝつた、最後となつた。

今年春、久しふりで青山に吉田珍雄氏を訪ねた時、本多猊下の御病氣が宜敷ない、吉田夫人が見舞に行かれた話をきいた。一度妙國寺へ御見舞せずばと思つて居るうちに、三四日すると早や遷化の悲報。密葬式の日は妹尾君も泣きながらいろ〳〵話をしてくれた。

これは春吉田氏から聞いた話、立正大師諡號宣下のあつた頃、猊下は身延祖廟中心に日蓮門下各派は必らず集まるべし。各派管長は身延に參籠して守塔輪番の古制を復起すべし。布教宣傳本位に全日蓮門下を動かすべし。葬儀、法要等讀經の御布施は少なくてもよいが、說教講演を依頼する時には出來るだけ體を厚くすべし、等々。

本多日生上人一生の御事業は日蓮門下の教團を肅正し、振作し、各派の統合歸一を圖り、日本精神文化の精髓を世界に發揮することであつたと思ふ。統一團の結成、統一閣の事業、天晴會、地明會、自慶會、知法思國會の結成、一萬餘座の說教講演、數十編の著作止暇斷眠の御活動は皆之れが爲めであつた。殊に昨年十月十一月の夜寒に連夜知法思國會員の先頭に立つて、東京市内外街頭に辻說法を行はれたことは、駄眠を貪れる日蓮門下に警鐘亂打として悲壯な感じを與へられる。

今年四月廿八日、日比谷公會堂で日蓮宗の主催で立正大師諡號十週年の紀念大會が開かれた時、小笠原子爵、佐藤中將、大迫大將、田中智學先生等の式文祝詞があつて滿堂立錐の餘地もなかつたが、何だか最も大きな事が不足して非常に淋しかつた、それは本多日生上人の御出席を見られなかつた事である。

今度「立正」の二字　聖上陛下の天筆として身延山祖廟に下賜せられる事になつた。十月一日池上本門寺で其欽戴式が行はれ、其夜其勅額の御供をして身延祖廟に參拜する、奉送團體も二列車位は出來さうであるが、之れにも本多上人のまましまさぬことは淋しいことである。

而かし思ふ、日蓮門下各派統合歸一事業に勵進するところ、知法思國會の發展、街頭布教の常時不斷

奉行、そこに顯本も八品も一致もない、本多上人の全身いまします、日什大正師も、否日蓮大聖人も！

昭六、九、五、夜

野口日主上人追憶

工學士　寺尾與三

私は初めて野口上人にお目にかゝつたのは明治四十四年か、五年、京都寂光寺であつたやうに思ふ、それから大正四年夏まで統一閣や妙經寺でいろ〳〵の機會にお目にかゝり、親しくいろ〳〵と教へて頂いた。

碁哲本因坊算砂日海は寂光寺の住であつた、織田信長、豊臣秀吉、德川家康三人とも、碁は名人算砂に習つて四五子の手合とはなつた。即ち、三人とも名人に四五子の强さといへば、今でいふと約初段といふところ、天正十三年六月一日本能寺で信長の面前に召され、利玄と圍こんだ碁に、あやしく三劫生じ。天下近く異變ありと知つた話や、寂光寺傳來唐桑の碁盤。日海愛用の碁器に關する話や、碁道の振興に、報本反始、法華經化運動に就いて、毎年一回寂光寺に於て、本因坊主催、高段者大會、初代算砂の圍碁供養を行ふべし、などといふ話を野口上人から承つた。之れは何といふても寂光寺主が中心で、朝野棋界の名士、本因坊等を勸說して行ふべきであらう。

野口上人は佛教日蓮教學より漢學の趣味があられたやうである、殊に書道に於ては雄渾暢達。日蓮門下近代稀に見る處でなからうか。

大正九年冬であつたと思ふが、私は滿洲鞍山に居た頃、野口上人は滿洲西比利亞布教に來られ、暫らく大連の金子雪齋翁の處に滯在して居られた事をきゝ大連に私は尋ねて行つた。內地への歸り途、鞍山奉天等で日蓮主義の講談を行ひ下されんことを御願ひした。

それが實現されたのであるが、鞍山立寄りの日があまりに突然であつたので、折からの寒さといひ、一千餘人を入れる鞍山小學校の大講堂に、僅かに八九十人の聽衆しか集まらなかつた事は、聊か遺憾であつた。而かしピイ〳〵寒風の吹く中を遠路と雨を

ついて集まつた聽衆とで終りまで皆熱心にきいてくれた。

講演が終つてから私の社宅で中川氏、相川氏等四五人の同志が私共家族と一しよに野口上人を圍んで十二時過ぎまで、いろ〳〵信仰談をして頂いた。其夜上人は私の社宅二階八疊で寢まれた、翌朝拾時頃奉天まで御供をした。

鞍山講演紀念に書いて頂いた如鐵圍山、我此土安穩等の經文、聖訓、三四枚が表裝され殘されてある。

それから早や拾餘年流れた。今年七月初め私は淺草妙經寺に御病氣を御見舞した時は、やせては居られたが、まだ〳〵元氣で、床の上に起きて拾數分いろ〳〵御話しをうけたまはつた。

印度の靈鷲山に玄題塔を立てるために五十里もはなれた村に、お題目を書いた紙と金百圓つけて石も撰定して賴んで來た。日蓮主義中心となり、日本より毎年盛大に佛跡巡禮を行ひ、「日本の佛法月氏に還るべし」の聖訓にこたへ奉り、また、日、英、印の親善を行ふべし、などの日蓮門下各教團の祖廟中心統一進んで其世界的進出の大理想、大抱負その一端をもらされたが、今や其人はない、誠に惜みても惜みきれない。

野口上人と私、私は野口上人にすゝめられて、毎月五日妙經寺で開かれる四恩教林の講演にも、安國論、開目鈔の感話など六七回述べさせて頂いた、其外いろ〳〵の點で思ひ出では多い、日蓮主義者は凡て政治圍內に突入して政權を掌握せよ、などといふ話になると、全く一心一體に共鳴したものであつた、語れば際限はないからこゝらで、長談義はやめる。

あゝ事智悲院日主上人　南無妙法蓮華經　合掌

（昭六、九、五）

記事

宗祖御遠忌第二回大講演會

十月は京濱の地に於て大鼓の響、萬燈の數々特に異彩を放つが、さて眞に　日蓮聖人の思召を恐察する時に、私共門下の

信仰は直ちに愛國の精神となり、時弊を匡救する運動に就かねばならぬと思ふ。そこで吾等貧弱なりと雖も此御會式月を空過してはならぬと、遂に十月九日午後六時より報恩大講演會を神田一つ橋通り中央佛教會館に開催した。定刻梶木顯正師の「開會の辭」に次で、田中道爾氏の「經濟國難」を論及あつて後、陸軍中將四王天延孝閣下の「自界叛逆難他國侵逼難」に就て、外交問題から、秘密結社、共產運動、國際聯盟の活動やら、勞農露西亞の現狀から、進んで滿蒙事變の眞相を、盡く大きな圖示に依つて、滔々三時間以上に亘る熱辯に滿堂の聽衆は生憎の豪雨を物ともせず、耳を聳て目を張り片唾を呑み拳を握つて、猶其時間の過ぐる早きを惜んだが、既に定刻も疾く過去つた事とて百雷の如き拍手裡に降壇され、續いて小西日喜氏の護法受國の火の出るやうな「閉會の辭」に、數百の來聽歡喜滿喫散會せるは十時半であつた。因に四王天中將の當夜の御講演は、來月號に掲出する豫定なれば刊目お待ちを願ひたい。

顯正會記念大講演

日蓮聖人六百五十遠忌記念舟守彌三郎殿報恩並びに大講演會を十月三日顯正會主催で本所綠小學校にて開催の運びとなつた。何分顯正會としては最初の大講演會なれば一同は聽衆が集まるかどうかと不安裡にあつたが、會員の方々は皆獻身的の奉仕を以て準備に宣傳にと八方に馳けめぐつての努力をなされた。

午後六時より先づ舟守彌三郎夫婦慰靈報恩祭を執行する。熱辯家愛國義團々長松岡氏立つて開會の辭を述べられた。聽衆は既に豫定以上の席を占む。次いで顯正會々主梶木顯正師の明らかなる御自我偈唱題され嚴肅裡に式次は進行する。其の時聽衆はぞく〳〵と押かけ會準備委員はまさに大童の體である。

舟守彌三郎夫婦慰靈のため會を代表して岡野氏、鈴木女史の二人がねんごろなる燒香を行ふ。會主梶木師は次いで舟守彌三郎抄朗讀があつた。

「過去に法華經の行者にてわたらせ給へるか、今末法にふなもりの彌三郎と生れかはりて日蓮をあわれみ給ふか、たとひ男はさもあるべきに、女房の身として食をあたへ洗足てうづ其外さも事ねんごろなる事、日蓮はしらず不思議とも申すばかりなし等々、又日蓮を內々にはぐくみ給ひし事は日蓮が父母の伊豆の伊東かはなといふところに生れかはり給ふか」云々の段になると梶木師の音讀打ふるひ聽衆身にひし〳〵とせまるを感ず。

梶木師降壇後、中山昌治氏立ちて世話人代表の挨拶ありて慰靈祭は終了し、講演會に移る。

妙法會々主鈴木うた子女史は「人生に對する私の考へ方」といふ講題にて熱辯四十分にわたる講演あり。聽衆は既に七百を超ゆ。文學士高矢休敎師は所感として講演あり。次いで會主梶木顯正師は「人と報恩の思想」の講題にて滿堂書々たる中に講演さる。

講談界の一人者桃川素樂師は舟守彌三郎について講談あり、日蓮聖人、舟守彌三郎夫婦を彷彿たらしむ。本會の終尾に文學士小林一郎先生が「日蓮主義と彌三郎」の講題にて先生獨特の機微を穿つた講演あり、聽衆は拍手喝采しばし止まず。

最後に岡野氏より無事終了に對する感謝の辭あつて閉會す。

最初の講演會に關らずかくの如く盛會裡に終了し得たは、會主梶木師の努力と又會員の獻身的奉仕とが相待つての事である。尙新會員十六名も得たことはその日の盛會さを物語つて餘りあることである。（時澤報）

教報

◎神奈川教信

宣敎の任に當るものがあつて社會的に進出するならば神奈川縣ほど敎線の擴大性を有する有望な地はないであらうが唯だ一人の三上義敎師が動いて居るだけでは顯本主義の新結成を見ることは容易でない實に遺憾の至りである。八月十五日夜厚木町に講演會を開く水心亭內外に聽衆三百餘名三上師は長敎感恩の實行なければ人にあらずとの題下に現代變調の思想缺陷を擧げて宗敎の本質人間の價値を說いた。八月十六日飯田本興寺に法要修行後顯本主義の法統を受護宣敎したる偉壯の血涙史を述べて正義の信仰を勸め百餘の聽衆に深い刺戟を與へた。八月十八日厚木町藤野宅に繼仰會を開き自我偈の續講を來行す。九月三日鎌倉材木座角及び長谷四條庵前にて顯本主義を高揚す兩所の聽衆三百餘何れも傾聽して日常生活の煩悶の一首が消え失せたかの滿足氣分のものも見へた動けばそれだけ何等かの御役に立つことゝ思はれる若し同志の來りて師伴融合の握手するものあらば更に一段の活動を爲し得るであらう。

◎瀧の川教會の龍口御法難會

東京市外瀧の川本佛教會にては三上師の導師にて參會者一同熱讀力唱の報恩會を修行後講演

信は力なり　山口　智光師
生活創造の宗教　和賀　義見師
龍口法難の活敎調　三上　義徹師

會員何れも熱烈なる信仰に住し身をもつて信仰を味得しつゝあるはげに尊とい限りである更に異體同心の精進によりて法運益々展け行くことであらう。

◎山陰教信

○八月八日　鳥取法泉寺　高田　日暢師
妙宗大意
○八月廿八日　法泉寺　高田　日暢師
妙宗大意
○九月五日　鳥取公會堂

現代の世相と宗教生活　小林一郎先生　妙宗大意　高田　日暢師　彼岸説教　高田　日暢師
○九月五日　鳥取運送業學校　○九月二十二日　鳥取運送團　○九月二十八日　鳥取法泉寺
日本國の佛法　小林一郎先生　御遺文講義　高田　日暢師　法華經と戰闘　高田　日暢師
○九月十二日　鳥取法泉寺　○九月二十八日　鳥取法泉寺　○十月三日　鳥取法泉寺
法華經要義　高田　日暢師　妙宗大意　高田　日暢師　法華經要義　高田　日暢師
○九月十八日　鳥取法泉寺　○九月廿四日　鳥取法泉寺

統一團法人組織と寄附者芳名（自九月十七日至十月十六日）

皆様の多大なる御賛同の下に益々深刻なる財界の只眞中に奮然として　聖應院日生上人の遺命實現に盡瘁致して居ります。

豫定の期日も愈切迫致して參りました日生上人の教恩に感激されて居るお方は僧も俗も奮つて此淨業に御參加金額の多少に拘らず折返し御醵出被下樣偏にお願申上ます。

一金壹百圓也　大森常修院　日成殿（計二圓入金）
一金壹百圓也　東京鈴木うた殿
一金七拾圓也　仝　貝塚敏二郎殿（即納）
一金五圓也　仝　大竹良平殿（即納）
一金壹百圓也　仝　北條平太郎殿
一金拾圓也　仝　長谷勘次郎殿（即納）
一金參百圓也　仝　松村貞治殿（即納）
一金百五拾圓也　仝　池田新一殿（即納）
一金壹百圓也　仝　一本木悅太郎殿（金拾圓入金）
一金壹百圓也　仝　無名氏殿（即納）
一金五圓也　青森縣　田鎭高吉殿（即納）
一金拾圓也　京都　小島愛之助殿（即納）
一金五圓也　東京府　河本梅造藏（即納）
一金拾圓也　横濱　高田夫人殿（即納）
申込總計金壹萬九千六百七十六圓也
既收累計金貳千六百四拾八圓也

團費誌料領收（自昭和六年九月二十一日至仝年十月二十日）

一金六圓也　札幌　本澤隆正殿
一金貳圓貳拾錢也　足利　山口鎗造殿
一金參圓八拾錢也　東京府　宮原六郎殿
一金貳圓貳拾錢也　仝　宮原や殿
一金拾四圓也　神戸　熊井本光殿
一金參圓也　弘前　竹内軌愛殿
一金四圓五拾錢也　奈良　田中峰太郎殿
一金貳圓貳拾錢也　仝　栗原敬三殿
一金貳圓貳拾錢也　愛知縣　長遠寺殿
一金貳圓貳拾錢也　尼崎　植村藤次郎殿
一金貳圓也　東京府　笠森つや殿
一金壹圓四拾錢也　仝　星野純義殿
一金壹圓貳拾錢也　仝　森山春吉殿
一金壹圓也　仝　笠間信評殿
一金拾圓八拾錢也　千葉縣　風戸三藏殿
一金貳圓貳拾錢也　京都　久城勝三郎殿
一金壹圓貳拾錢也　ホノルヽ　日比野妙鏡殿
一金六圓貳拾五錢也　東京　池田悅太郎殿
一金參拾圓也　仝　宮中さく子殿
一金六拾錢也　東京府　長澤信一殿
一金四拾錢也　仝　新實德三郎殿
一金五圓也　仝　山本和殿
一金壹圓也　仝　板倉榮太郎殿
一金壹圓也　茨城縣　高島秀吉殿
一金四拾錢也　東京府　和田德治殿
一金參圓也　清水　鍋田勇吉殿
一金壹圓貳拾錢也　編岡　今村浩子殿
一金貳圓貳拾錢也　靜岡縣　桑原城有殿
一金壹圓四拾壹錢也　大阪府　中村義人殿
一金貳圓也　東京　白井勢平殿
一金貳圓四拾錢也　京都　富永東一郎殿
一金八拾貳錢也　下關　白石研輔殿

右難有入帳仕候也

「統一」會計

御注意

一、團費、誌料は總て前金に願ひます
一、前金切又は前金未收の御注意を致して一ケ月に及ぶも御拂込なき場合は乍遺憾御送本見合せます
一、集金郵便は金三圓以上にて其取立には團費誌料の上に金拾錢の集金料を添加致します
一、御轉居の節は必ず新舊双方を明記御通知下さい
一、御照會には可成返信料を添付して下さい

目次

聖訓摘要……聖應院日生上人
自界叛逆難他國侵逼難……四王天延孝
記事
○統一團協賛會々報
○各地宗祖御遠忌大法要
○本部特別講演會
○通信欄
○誌料領收

第三十六年十二月號

團旗奉戴式と記念大講演會

一、十一月三日 明治節 午後正三時
一、東京府品川町妙國寺に於て
統一團本部團旗奉戴式擧行
一、同六時より同本堂に於て
記念大講演會開催
○滿蒙より歸りて國民に告ぐ
貴族院議員 男爵 井上清純閣下
○滿蒙問題に就て
陸軍次官補佐 陸軍中將 秦 眞次閣下

主催 統一團本部
知法思國會
後援 帝國在鄕軍人會品川分會
品川青年團

統一定價

一ヶ年	半ヶ年	一部
金貳圓貳拾錢	金壹圓貳拾錢	金貳拾錢
送料共	送料共	送料五厘
前金之事		

統一廣告料

四分一頁	半頁	一頁
金五圓	金九圓	金貳拾五圓
前金之事		

昭和六年十月廿四日印刷納本
昭和六年十一月一日發行 (第四百四十號)

編輯兼發行人 磯部滿事
印刷人 鈴木日雄
印刷所 都印刷所 東京府荏原郡品川町南品川百八十一番地 電話高輪六〇二四番

發行所 統一發行所 東京府荏原郡品川町南品川四百十二番地 振替東京五一〇七一番

神奈川縣橫濱市磯子區磯子町廣地一四八

編輯事務ハ發行所ニテ取扱フ

不許複製